

【香川県教育委員会教育長賞】

「受け入れられない」って思ってもいいの？

香川県藤井中学校 一年 高畑七彩

「クラスにすぐ変わった子がいるんだよね」

私は小学校時代に友達にそうこぼしたことがある。

その子は話し方が独特で、声も大きかったり小さかったりする。興味のあることだけを急に話し始めたり、空気を読まずに話しかけてきたりすることもある。最初は「なんか変わってるな」と思っただけだった。でも日が経つにつれて、どうしてもその子というのがつらくなっていた。

私はあまり人の悪口を言うタイプではない。だけど、その子と一緒にいるとつかれる。正直、距離を置きたくなってしまう。そんな自分に、少し罪悪感もあった。先生はよく言う。

「みんな違って、みんないい」

「人それぞれでいい」

と。でも、私はその子のことをどうしても苦手だと感じてしまう。この気持ちは、間違っているのだろうか。それとも、私が『人権』をわかっていないだけなのだろうか。

人権についての授業では、「どんな人も尊重されるべき存在」だと学んだ。見た目、性格、話し方、障害のあるなしなど、人はそれぞれ違っていて当たり前で、その違いを大事にしよう、という内容だった。

頭ではわかっている。でも、心はなかなかついていけない。

「人権を大切にすることとは、きれいな人とも仲良くしろってことなの。」

「苦手な人を受け入れなきゃいけないの。」

そんなふうに思ってしまう。私は心がせまいのかもしれない。そう思

うたびに、なんだか自分がいやになる。

でもある日、別の先生が話していたことが心に残った。

「受け入れるっていうのは、仲良くなることだけじゃないんだよ。違いを否定しないってこと。無理に好きになる必要はない。ただ、その人をバカにしたり、仲間外れにしたりしないこと。それが尊重なんだ。」この言葉を聞いた時、少し心が軽くなった気がした。

そうか。苦手に思ってもいいんだ。でも、その人を傷つけるようなことはしない。そういう距離のとり方も、『人権を大切にすること』なんだ、と初めて思った。

私はこれまで、「変わってる」おかしい」と思い込んでいた。でもよく考えれば、私だって変わっているところはある。マンガが好きすぎて、夜遅くまでマンガを読んでしまうし、好きな歌手の話になると止まらなくなってしまう。

きつと、だれにとつても「普通」は違う。私にとって「普通」じゃないだけで、その子にとつては「当たり前」なのかもしれない。だから私は、「自分の普通」を人に押しつけないようにしたい。そして「この人はこういう人」と決めつけすぎずに、少しずつでも理解しようとする気持ちを忘れたくない。

それでも、やっぱり今の私は、その子と心から仲良くなることは難しい。無理に話しかけることも、距離を縮めることもできない。でもそれでいいのかもしれない。自分の心にうそをついて「いい子」になろうとしなくても、「違いを否定しない」「傷つけない」ことができていれば、それも立派な思いやりの形だと思うからだ。

この夏、私は万博に行き、さまざまな国の文化や考え方に触れることができた。どの国のパビリオンにも、それぞれの工夫があり、言葉や見た目、習慣が違っていても興味深かった。その中で、私は「変わっている」おかしい」という意味ではないという大切な事に気づい

た。

例えば、インドでは手で食事をする文化があり、最初は「変わっている」と思った。でも、その理由を知ると、手で食べることには意味があり、むしろその国では当たり前のことだとわかった。知らないままだと、自分の中の「普通」と違っていているものをすぐに「おかしい」と決めつけてしまいがちだ。でも、相手の文化や背景を知ること、その人のことをもっと深く理解できるようになる。

学校や身近な生活の中でも、考え方や行動が自分と違う友達を「変わっている」と思うことがあるかもしれない。でも、少し立ち止まって「なぜそうするのだろう」「どんな気持ちなのだろう」と相手を知ろうとすることが、人と人との関係をよりよくする第一歩だと思う。

万博での経験を通して、私は「知らないことⅡ変Ⅱおかしい」と思わないように気をつけようと思った。そして、これからはいろんな人と出会ったときに、その人のことをよく知る努力をし、違いを受け入れることのできる人になりたい。

それが、私なりの人権への向き合い方だ。